

(2) 実践例〈2年生〉 「身近な器からの石膏型抜き」 ―石膏の造形―

石膏は硬化した状態からのカーヴィングや直付け彫刻、塑造制作での石膏取り等に使用されている素材である。しかし、準備や片付けに手間取ることや耐久性に欠けるために、授業で取り扱うことは敬遠されがちな素材でもある。

生徒は、日常美術室で「石膏像」や黒板の「チョーク」として目にしたり触れたりしている。また、広く建築材（壁材）や陶器の大量生産品の石膏型としても使用されているものである。

実際に生徒の目の前で白い粉状の石膏を水でとき、徐々に硬化していく様子や硬化途中の発熱（約40℃）に新鮮な驚きを体験する。

プリン・ゼリー・アイスの様々なカップや前に用いたアルミ缶に石膏を流し込み、型抜きを行った。石膏をとく段階で絵の具を混入し着色したり、マーブルリングを施すなど工夫して美味しそうな「特性アイスクリーム」に仕上げた。また、四季や宇宙をイメージした作品は、感性豊かに表現されており文化祭展示の際に鑑賞者を魅了した。

本題材も3時間取扱いとして進めたが、石膏の技法体験は次の「樹脂によるペーパーウェイト制作」へとつながり、発展していくことになる。



[石膏型抜き作品 (A)]



[石膏型抜き作品 (B)]